

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所のあり方については、今までの理念の上に「地域の中で共に支えあい、共に歩む」を基本として位置づけをし、地域に開かれた施設として取り組み実施している。	○  積極的に地域活動に参加し、地域のニーズを引き出し、支援していくことに努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンスはもちろん、勤務終了時の報告の際にも日常業務を通じて理念を共有具体化できるよう管理者及び苑長と職員間で意見を出し合っている。また、その思いを基に2ヶ月に1回更新している標語をスタッフ全員で考え掲示している。	○  標語の確認と認識 ・出勤時などに必ず確認し、常に意識を持つように努めている。 ・標語は今後益々活発化させて行き、次へとつなげて行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族合同茶話会を通じ、利用者が行事や日常生活の中で地域とのふれあいを知ってもらう。	○  運営推進会議及び茶話会の開催や家族の行事への参加を推進している。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑やお店に気軽に出かけ、お店や近所の人達とコミュニケーションをとっている。	○  今まで築いてきたものを大切に、今後にお付き合いを発展させて行きたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や民生委員の方々と連絡しあってお祭り、花見、七夕まつり、もちつき、等に参加している。また、他地域からも声をかけて頂き、小学校の祭りに参加している。	○  学校、幼稚園、保育所等の行事に参加して子どもたちと交流の機会を多くし、地域活動に参加、交流を深めて行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として地域への取り組みは行っている。	○	事業所として、高齢者の暮らしに役立つことを話し合い取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を基本に、出来ている事出来ていない事を再確認し、取り組んでいる。	○	ホームの理念を忘れずスタッフ一人ひとりの考えを活かし、統一性をもって業務に励んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者やご家族にホームでの生活や暮らしぶりを報告しています。また、利用者にも数名参加してもらい実際の声を聞いてもらい、率直な意見を出してもらえる様に取り組んでいる。	○	いろいろな意見が出やすい雰囲気作りに努めたい。いただいた意見をサービス向上に活かせる様にして行く。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北保健福祉総合センター及び北区地域包括支援センターとはグループホーム勉強会、研修会等の開催やケースの相談等連携は常時行われている。	○	常に連携をとり地域のニーズを知り、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支えて行く。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域グループホーム勉強会等に積極的に参加し、権利擁護や後見人制度を学習している。	○	必要性のある利用者に活用して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束廃止、虐待防止委員を設置しており、勉強会を行い何が虐待となるのかマニュアル等を含めて委員一人ひとりに啓蒙を行っている。また、利用者の身体の変化もヒヤリハットや事故報告についても職員全体に開示し、検討している。	○	高齢者虐待防止関連法についての研修、勉強会に参加し、虐待について個々の職員が具体的に理解し、防止に努める。スタッフがストレスをためない様な環境作りに努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づいて説明を行い、家族や本人に理解してもらえよう努めている。	○  入院時の契約についても十分な説明を行なう。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスの設置。日常の会話や関わりの中から不満や意見が聞けるよう努めている。	○  利用者の意見が日常生活の中で実現できる様に努め、不満や苦情が言えることが生活の中に活かされると言う実感が持てる様にする。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態や暮らしぶりの説明を行ったり、写真で外出時の様子など確認していただいている。4半期毎に便りの発行。ケアプランの説明時には半年間の変化を含めた状況を説明している。年3回の家族会を開きその際にアルバムや活動記録を見てもらい金銭管理の出来ない方には出納帳にサインをもらう。血液検査の結果も確認してもらい、家族会に参加できない方は来苑した際に報告している。	○  金銭トラブルがないよう保管場所になどに気をつけている。出納帳を家族に確認サインをもらっている。今後もこのような方法で実施し、家族と共に利用者を支えて行く。来苑時や電話がかかってきたときには近況の様子を伝えるようにして、家族にも利用者の様子がわかるようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスは設置してあるものの実際意見としては上がって来ていないがご家族には訪問時やプラン説明時に常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。家族会（茶話会）は設けているが家族と職員の関係作りの段階である。	○  家族会（茶話会）において家族だけの時間を作り、代表の方に意見を伝えてもらうようにする。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会で意見や提案を聞く機会を作っている。	○  今後もスタッフと意見交換を行い運営に反映させて行く。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフ全員がその都度状況の変化に応じ、役職者の調整により柔軟な対応を講じている。	○  有効な調整となるようカンファレンスの持ち方も勉強して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限度に抑えられている。異動があっても併設施設であるため、なじみの職員との接触の機会が多くあり、また法人の行事等での交流も多くあるため影響は少ない。また、利用者のユニット間の交流も頻繁であり、職員もそれに応じた対応をしている。	○	引継ぎの期間に幅を持たせ、継続したケアが行われるようにする。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員ともに研修の機会を設けている。研修内容は報告する場（勉強会）で発表している。また、実習生を積極的に受け入れ、外部の新鮮な気付きを確保している。	○	研修報告書を開示し、閲覧を周知し、活かして行きたい。毎日が積み重ね、勉強であるという姿勢を忘れないで行く。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区においては北グループホーム会を作り、毎月1回集まり情報交換、勉強会、事例研究、相互訪問、相互研修等行い活動を通じてサービスの向上に取り組んでいる。	○	今後もさらに活発に活動し、グループホーム全体の質の向上と地域支援へと発展させて行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常時苑長がスタッフと対話をを行っている。また、スタッフ間で何でも言い合える雰囲気作りに努めている。	○	働きやすい環境づくりを心がけ、利用者から受ける喜びや感動、感激を共有できるようにして行く。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に1回勉強会を行っている。研修報告や学びたいテーマを出し合ったり利用者から得られる喜びを共有し、仕事に対する充実感や意欲を向上させている。	○	勉強会や研修、グループホームに関する情報を提供し利用者と共に生活する中で職員個々の努力や実績個性を認めプライドを持って働けるように取り組んで行きたい。勉強会では外部の研修を受けることで今行っている支援の確認や気付きが出来るなど前向きな姿勢となっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの訴えを傾聴し、受け止めるよう努めている。	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場から物事を考え、不安や困っていることを具体化し、求めていることは何か理解に努めている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性を見極め法人全体での支援を行っている。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今回体験入居という形をとり、スタッフや入居者との馴染みの関係からはじめ入居となった。日々家族との連携、情報交換を行うことで本人も心理面では日内変動もあるが落ち着かれていった。	○	今後はいきなり入居と言う形ではなく、本人の安心や納得を得ることの大切さを学ばせられた事例をもとに、取り組んで行きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は手をかけ過ぎないように日頃から注意し、洗濯や掃除等利用者ができる事は役割として意識付けし出来る喜びや充実感を感じてもらえるようにしている。	○	入居者から学ぶことも多く気付かされることや生き方までが感じ取られている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族付き添いで病院受診されたり、携帯電話を所持して自由に連絡を取ってもらっている。家族が本人の服など宅急便で送ってもらうことによって家族と共に支えていくような関係を築く。	○	生活は共にしていないけどいつも家族の中には家族の一員であることのある感じが、利用者本人も自覚を持ちながら生活されている。家族と事業所の役割がありその中で自分の思うまましかしここのルールをしっかりと守りながら生活されている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症で言葉が出にくく家族へ怒ってしまう利用者へは、職員が間に入っての思いの伝達など行っている。各自の活動したことなど、家族来苑時には伝えるようにしている。	○	外出（美容室・食事・買い物）のついでに自宅に立ち寄り、家族の皆に会える機会を作っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の夏祭りや年賀状、手紙の交信を継続し馴染みの人との関係が断ち切らないように努めている。	○	地元の夏祭りでは多くの馴染みの方々と出会うことが出来た。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士で声を掛けあって行事等と一緒に参加している。少しの間車椅子を押してもらうことによって、利用者同士の関わりを増やしている。食事の支度の場合、それぞれの役割を持ちつつ配膳時には利用者同士が「これはあなたの分」とかそれぞれ箸や茶碗を皆の分覚えてくれており「○○さんの」と関わり合っている。	○	新しく入居された利用者が、自然とこの中にとけ込まれ、今までと同じような利用者同士の関係が保たれるように支援していく。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ここでの馴染みの関係が持続できる様な関わりをもっている。	○	馴染みの関係として時には懐かしく思えるような心の支えとなるよう入居中からの関わりを持つ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	○	その時々によって変化する希望や意向をスタッフ間で検証し、検討して行きたい。
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	○	まだまだ把握できていないのが現状であり、その人が行きたい所ややりたい事を日常の暮らしの中から少しでも把握できるようにしたい。
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	○	ケース記録、事業日誌、連絡ノート等を活用し、日々の関わりの中で心身ともに変化を見逃さないよう努めている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	○	必ずしも関係者が一堂に会することばかりではないので日頃より広く意見を集めるようにしている。今後さらに記録やモニタリングが次の介護計画へとつながる様に持って行く。
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	○	話し合う機会をすぐに設けるのが難しい場合もある。また、中々話す機会を持ちにくい家族もあるので解決して行き、現状に即した計画を作成する様に努めて行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、申し送りも口頭だけでなくユニットでの連絡ノートに記入して確認のサインをすることによって、情報を共有するようにしている。又、夜勤者には宿直室に申し送る内容を紙で貼り出すことで、漏れがないように実践や見直し等に活かしている。	○	勤務入りした際の日勤・夜勤者間での申し送り、ケース記録や連絡ノートの閲覧と確認サインの記入。「夜勤者の皆様へ」と題した夜勤者用の申し送りを記した貼り紙。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の必要な支援には柔軟に対応している。医療連携体制を活かしその利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活継続、重度化した場合や終末期の入院の回避。	○	医療連携体制の充実により、内科、整形外科、歯科、精神科受診が可能である。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出初式や学校の文化祭等に参加している。また、医学部学生の実習を受け入れ、利用者が健康面での相談をする機会となっている。	○	もっと多くの協力機関を作って行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応や協力を行いたい。	○	必要が生じたら速やかに対応して行く。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター、北区グループホーム会の協働で後見人制度についての勉強会を行った。	○	地域包括支援センターと協働することにより地域の状況把握に努める。12月には虐待についての勉強会を予定している。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	今後も家族との連携を密にしたい。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	第一線で認知症に詳しい医師の診察でひとりの利用者と医師の関係を築くことができた。また、スタッフの悩みを相談したり、自分たちの関わりを肯定してもらうこともあり、とても救われている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護師は利用者の平素の状況の把握に努め、変化をキャッチするスタッフの声にきちっと耳を傾けて行くこと。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	医療機関から情報を得ながら早期退院ができるよう働きかけて行く。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	本人に「ここで過ごしたい」と言ってもらえる様なユニットを目指したい。また、医務と連携をとりきちっとした対応をとって行きたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	それぞれが抱え込んでしまうことなく、チームで支えるという意識を持って取り組んで行く。チームみんなが優しい気持ちと暖かい心を伝える技術を最大限に発揮できるようにして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	現在の取り組みをさらに充実したものとし、ダメージを防ぐ。
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	人生の大先輩であるという意識を常に持ち、症状がその方の全てではないことを念頭に置き、受け止める心やその人らしく生きて行けるような支援をしたい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	本人の気持ちを尊重し、スタッフ全体で塗り絵の進み具合や出来栄を折にふれ言葉を掛け、達成感を持ってもらえるようにしている。季節や本人の納得とする分野も取り入れ、模擬ではあるがよいものが出来上がっている。又、スタッフも本人の集中力や意外性に学ばされている。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	全体としての輪を保ちながら個々の生活を大切にやり取りしている。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	日常的にも清潔で本人の気に入った服装で過ごされている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	畑で出来た野菜や果実と一緒に収穫する楽しみや季節の物を味わえるメニュー作りを提供している。嫌いな食べ物は器に入れず代替を行っている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	アレルギーのある方や苦手なメニューのある利用者へは、それにかわるメニューを提供している。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	排尿の間隔がつかみにくい時もあるがトイレで気持ちよく排泄ができる様に関わっている。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	毎日入浴したい方や、日にちを決めて入っている方が希望日に入浴する時に、時間帯が重なり嫌な思いをされないように気をつけている。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	眠いサインや疲れた様子を見逃さず、入眠や休息がスムーズに図れるよう支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	利用者が相手の役割を理解し認め合い助け合って生活できる様支援している。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食等で支払いの時はその時に払ってもらい、お金を支払っているという感覚を大切にしてくれるよう支援している。	○	耳が遠く聞きにくい方へは職員が間に入り店員等とのつながりを作っている。お金を所持されている方からは、毎月お茶代500円を直接領収書を渡してもらっている。又、先月のおやつ支出費への確認をしてもらいサインをもらっている。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って散髪やクリーニング、近くのスーパーへ買い物へ行き、又特に希望がない場合でも散歩や外出の機会を設けて戸外に出られるよう支援している。	○	買い物へ行きたいと訴えをされる時は、その都度対応している。季節を感じてもらえるようお弁当やおやつを持って戸外に出掛けている。近くの喫茶店にも出掛けたりしている。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠足や大泉緑地へ年2回ヒーリングガーデンへ出掛け普段とは違う場所で、食事をしたり散策して楽しんでもらえる機会を作っている。植物が好きな利用者は国華園に買い物へ行き、楽しんでもらえるように支援している。	○	希望を反映できる機会を増やして行きたい。貸し切りバスでの小旅行は今後も続けてゆきたいと思っている。また、家族参加も視野に入れた外出も企画して行きたい。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して家族と自由に連絡がとってもらえる。お互い高齢などでなかなか会えない利用者には写真を同封した手紙や職員が間に入って電話をする。	○	手紙が届いたときには「返事書きますか？」等の声を掛け、家族とのつながりを保っててもらっている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑された時には、居室の椅子を確保したり居間の提供をしている。職員が間に入っての会話をしている。お茶とお菓子を出すことでゆっくりと過ごしてもらえるようにしている。	○	自室で過ごされることもあるが、居間で他者を交えて談話をされたりと自由に過ごしてもらっている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束とは何かを常に考えながら日々関わりを行う。また、職員間で指摘しあえるような雰囲気作りにも心がけている。	○	今後も勉強会や研修で身体拘束と虐待についての理解を深め確実なものとして行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>行きたい所へ行けることの自由さと安心を持ってもらえる様にしている。玄関は特養と併設の防火戸となり、閉めるが朝玄関まで新聞を取りに行かれるので起床とともに開けている。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>利用者がお互いに支えあうという気持ちを大切に受け止め、関わっている。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>ハサミ等居間で扱うときは見守りと状況に応じて利用者に注意してもらうよう声を掛け危険を防いでいる。おかきやクッキー等に付いている防腐剤、乾燥剤にも配慮している。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>事故があったときには速やかに対策を立て、他ユニット、特養の事故なども伝え合うことで事故の再発防止に努めていきたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>職員が緊急時に落ち着いた対応ができるよう日頃から心がけるようにしている。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>近隣住民の協力も得られるよう働きかける。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクのない生活はないということを基準に利用者がよりその人らしく暮らしてゆけるような働きかけを行いその都度家族等に説明している。	○ 家族が気兼ねなく訪問することで家族も共に支えているということとリスクの理解を深めてもらえる様説明を行っている。 生活のどの場面においても、本人の機能理解した上で必要に応じ見守り付き添い介助を行っている。外出の際の歩行状態が室内とは違うことを理解し対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言葉だけではなく表情、歩行、排泄、食欲、声の大きさなど一つの動作から体調の異変に早期に気付くよう努力し、速やかに連絡を取り合っている。	○ 速やかな対応を心がけて行く。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作成し、理解に努めており症状の変化があれば看護師に連絡している。	○ 配薬時に名前と日付を確認し、誤薬のないようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日3食摂ってもらい浣腸に頼らず自然排便へと考え支援している。排便のチェックを行い看護師との連携をとっている。	○ 看護師と連携しながら薬の調整を図っている。便通をよくする食材なども取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で義歯の管理ができる利用者に対しても確認をおこなっている。訴えがあった時は歯科受診を行う。	○ 舌ブラシを使用し口腔ケアを行っている。物品を常に清潔に保てるようにしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立を作成している。水分摂取量は表を作成し、1週間単位で状態が把握できるようにしている。	○ 表は記入するだけにとどまらず有効活用する。嚥下や咀嚼力が低下している入居者に関しても偏ることなく食事を摂ることができる様にトロミのだし汁を使用したり、お粥やおじやを作っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの奨励や布団の乾燥、空気の入れ替えなどを行っている。また、感染症には予防マニュアルを活用している。	○	習慣的、継続的に行えるようにしたい。また予防と早期発見に努める。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な台所の消毒や冷蔵庫の清掃を行い衛生管理に努めている。保存している食材には日付を必ず記入している。	○	現状を維持する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植木や花を飾ることもあるが現在はユニットにおいて花びら一枚一枚に鉢を入れ1ヶ月の日数をかけ出来上がったひまわりの花が置いてある。陵東館秀光苑の表示板は最高年齢者の方が書道教室で書いてこられたものである。	○	玄関は防火戸となっているが開放することでソファに座り日向ぼっこや談話をされる特養やショートステイの利用者の方もおられ、特養やショートステイの利用者の方々もご近所さんという捉え方をし、大切にお付き合いを重ねている。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事予定表を貼ることで季節の催しものを見てもらう。毎日の掃除を行い居心地のよい空間を提供できるようにしている。	○	皆より一足先に居間に来られる利用者があり、皆のために美味しいお茶を準備されるため、お茶葉の準備などスムーズに行えるようにしている。季節の花、果物、野菜までが彩を添えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	5階廊下に椅子を設置し居室に入らなくても利用者同士が会話できる様にしている。	○	利用者は自分で座る席を決められ、そこが自分の居場所と考えられているようで、その場が一番落ち着かれている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>今後は家族の協力を得て本人の馴染みの物をもつと沢山置けるようにしたい。また、利用者一人一人の生活を配慮し、動きなれた動線目線までが変わらないように心がけている。</p>
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>時には、窓を全開にし、外の空気を楽しんでいる。太陽の日差しが直接当たらないように、植木などを置いている。コーヒーを入れた後の、粉を消臭として使用している。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>背丈の低い利用者へは、食事の際美味しく食べれる様その人に合ったテーブルを用意している。椅子は、足がつく高さになっている。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	<p>朝と夕を間違えたり、混乱されるときもあるが、わかることから、説明を行い納得され行動に移されるのを待っている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	<p>ベランダのアサガオのつるが、風になびいたり花を咲かせている。アサガオのつるは、秋にとり入れクリスマスのリース作りに使用している。ベランダで咲いた花は、テーブルの上を飾り青紫蘇やハーブはおやつや食事で使用したりしている。新芽で青々とした植物は、居間に持ってきて楽しんでいる。</p>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々より拝むことを大切に法話やナーム21等の熱心な行事参加や、居間で皆集まってのおやつ作りや工作(紙粘土・クラフト)の作業や毎月の予定表作りなど創造する楽しみや早く出来た人が他者に教えあい協力する事で共有感を持った活動参加作りが出来ている。

男性や女性に関わらず、季節に合わせた服装を選び入浴時持参され洗濯もしたり、掃除や衣替えなど積極的に自分でできる事の達成感や食事準備(配膳)、居間の花の水やりで花の成長を愛でることなど各自の役割を持ってもらい、その活動に対しての他者間の感謝する気持ちを伝え合い充実感を得てもらうよう、また過剰に接し過ぎず個々の時間を大切にその人らしさや出来る力を引き出せるよう関わっている。窓から畑仕事をしている人がいられた時等に散歩に出掛け、その人達と話をすることで地域の方との交流を持つようにしている。